

平成13年7月12日(木)

第1回 石神井川流域連絡会



平成13年7月12日(木)PM2:00～
「第1回 石神井川流域連絡会」が、
2時間半にわたり開催されました。

公募委員11名(北区、板橋区、練馬区、
西東京市、小平市)と行政委員10名が
参加しました。

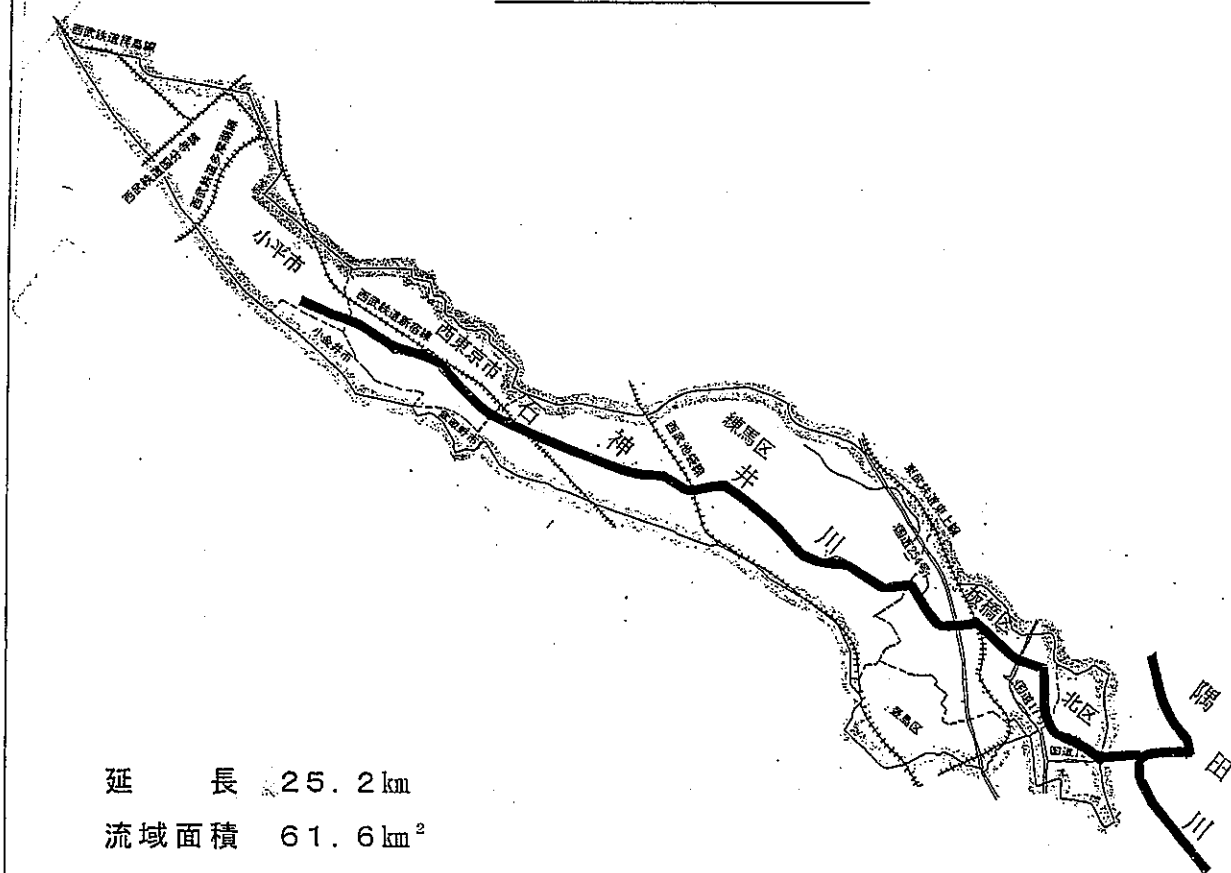
当日は、はじめに委員から石神井川に係る思いを話して戴き、次に「流域連絡会」設置要綱及び運営要綱の議事を行いました。続いて、事務局から河川の概要・治水計画・水環境の現状について説明があり、委員による質疑が行われました。

連絡会の目的

石神井川流域連絡会は、都民と行政が共通認識に基づき協働・連携して、地域に生きた親しめる川づくりを進めていくため、流域の住民や、区市及び都が河川に係わる情報や意見の交換・提案を行うことを目的としています。

連絡会の対象河川

石神井川概要図



石神井川流域連絡会 委員名簿

平成13年7月12日現在

委 員									
都 民 委 員	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 北 区 北 区 北 区 北 区 板橋区 練馬区 練馬区 練馬区 西東京市 小平市 小平市 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 江原秀典 清水孝彰 遠山隆久 山田久司 山本洋司 田村元雄 秋山榮子 海野幸雄 三浦清喜 吉村理 後藤英司 羽鳥謙三 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">都 民 委 員 計</td> <td style="text-align: center;">12名</td> </tr> </table>	北 区 北 区 北 区 北 区 板橋区 練馬区 練馬区 練馬区 西東京市 小平市 小平市	江原秀典 清水孝彰 遠山隆久 山田久司 山本洋司 田村元雄 秋山榮子 海野幸雄 三浦清喜 吉村理 後藤英司 羽鳥謙三	都 民 委 員 計	12名				
北 区 北 区 北 区 北 区 板橋区 練馬区 練馬区 練馬区 西東京市 小平市 小平市	江原秀典 清水孝彰 遠山隆久 山田久司 山本洋司 田村元雄 秋山榮子 海野幸雄 三浦清喜 吉村理 後藤英司 羽鳥謙三								
都 民 委 員 計	12名								
行 政 委 員	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 北区建設部河川公園課長 板橋区土木部管理課長 練馬区土木部建設課長 西東京市都市整備部下水道課長 小平市環境部下水管理課長 東京都環境局環境改善部計画課長 東京都建設局河川部副参事(中小河川計画担当) 東京都第四建設事務所工事第二課長 東京都第六建設事務所工事課長 東京都北多摩南部建設事務所工事第二課長 東京都北多摩北部建設事務所工事第二課長 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 佐々木宏章 谷口博志 平野和範 篠宮國雄 小杉皖一 柿沼潤一 内藤久男 ◎伊藤浩之 田中敏夫 新井敏男 東野寛 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">行 政 委 員 計</td> <td style="text-align: center;">11名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">合 計</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">23名</td> </tr> </table>	北区建設部河川公園課長 板橋区土木部管理課長 練馬区土木部建設課長 西東京市都市整備部下水道課長 小平市環境部下水管理課長 東京都環境局環境改善部計画課長 東京都建設局河川部副参事(中小河川計画担当) 東京都第四建設事務所工事第二課長 東京都第六建設事務所工事課長 東京都北多摩南部建設事務所工事第二課長 東京都北多摩北部建設事務所工事第二課長	佐々木宏章 谷口博志 平野和範 篠宮國雄 小杉皖一 柿沼潤一 内藤久男 ◎伊藤浩之 田中敏夫 新井敏男 東野寛	行 政 委 員 計	11名	合 計		23名	
北区建設部河川公園課長 板橋区土木部管理課長 練馬区土木部建設課長 西東京市都市整備部下水道課長 小平市環境部下水管理課長 東京都環境局環境改善部計画課長 東京都建設局河川部副参事(中小河川計画担当) 東京都第四建設事務所工事第二課長 東京都第六建設事務所工事課長 東京都北多摩南部建設事務所工事第二課長 東京都北多摩北部建設事務所工事第二課長	佐々木宏章 谷口博志 平野和範 篠宮國雄 小杉皖一 柿沼潤一 内藤久男 ◎伊藤浩之 田中敏夫 新井敏男 東野寛								
行 政 委 員 計	11名								
合 計									
23名									

◎ 座長

事務局 東京都第四建設事務所 工事第二課 工務係
 住所 〒170-0005
 東京都豊島区南大塚2-36-2
 電話 03-5978-1734
 担当：田島、笹原

第1回 石神井川流域連絡会 会議要旨

日時 平成13年 7月12日 (木) 午後2～4時半
場所 豊島区立南大塚社会教育会館第1会議室
出席者 委員21名 傍聴人6人 全33名

1. 開会

2. 挨拶

3. 各委員の石神井川に係る思いについて

都民委員：石神井川は全国カモ調査の場所に指定されており、石神井川のカモは、石神井川と不忍池を1日おきに往復していることが、矢ガモ事件で判った。また石神井川は、大雨が降るとゴミが沢山流れて来るが、清掃船で清掃している。河川を綺麗にするために、金が掛かるんだということが判りました。

都民委員：JR王子駅の近くに住んでいるが、今、飛鳥山の近くから、隅田川まで首都高王子線の工事をやっており、同時に川の付け替え工事をやっている。荒川市民会議の委員もやっており、荒川とまちづくりの関わりを考えるに当たっても、石神井川等の中小河川をどう活かしていくかが重要と考えている。

都民委員：親水公園ができれば、人の流れが多くなり、去年の夏、バスで見学に来たが、バスの止める所がないので困惑しました。地域に駐車場が必要というのが、個人的意見です。親水公園には、夏になると沢山の子供達が来ると思うので、水を綺麗にさせていただきよう、お願いします。

都民委員：仙川の水源は、住宅地の中で判らない状態で、石神井川も同じ気がしたが、湧水が有るので、それと水質を大事にすることが重要だ。下流が絶壁護岸なので、北区と東京都が協力して、何かしてもらいたいと同時に、我々も意見を述べて行きたい。まず現場を自分の目で見たいので、お願いします。

都民委員：城北公園の近くに、自動車教習所があり、東京都の方で買い、城北公園の予定地にしております。今後どの様にするか、聞きたいという話もあり、石神井川との関連で、何らかの形で川との繋がりを考えて行きたい。

都民委員：東京の川なんて、とまでは言わないが、綺麗で感動しました。石神井公園近くで緑が多く、良い所と思い引越してきた。見た目は綺麗でも大雨でドロ水に成るし、子供たちがゴミ拾いも出来ない川で、ボールが落ちて拾えない。そういう状態なんで、水辺に近づける、親しめるような川づくりを提案したいと思いました。

都民委員：私は、昭和25年から豊島園の所に住んでおります。当時の祖父や祖母の話で、石神井川は、鯉、鮒等が取れ、土手は、ミツバ、セリ、ヨモギ等、全部味噌汁の具になった。今は、3階の屋上から見下ろすような、石神井川になっている。練馬区の子供エコクラブの係わりと、児童館の係わりで、白子川、石神井川について調べる等で、活動をやっている状態ですので、宜しくお願いします。

都民委員：私の言葉で言うと、良い川とは、生きた川で、生きた状態の川にして、それを次世代に引き継ぎたいと思い、環境的な観点から、川を見ていきたい。西東京市の方では、まだ、生活排水が入っており、匂いがする、まだ整備されていないので、ある意味では、やりようがあると思っております。住んでいる地域を通して、人々と係わり合っていきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

都民委員：都会生活者にとって、自然に近い所が、何か故郷を感じる。石神井川の南田中あたりは人工的に綺麗に整備されているが、自然に近づきたい心の郷愁が有り、出来るだけ自然に近いものを求めていきたい。柳瀬川では、話によると、苦労して自然の川を残そうと努力しているのではないか。立派になった石神井川を、本当の意味で水に親しめる川になればと思っております。

都民委員：東京都内の河川、小河川に以前から強い感心を持っております。昭和33年、狩野川台風の時、我が家も床下浸水を受けました。その時以来、都市型水害ということで、都内各所の中小河川は、水害が頻発することで、クローズアップされてきました。私は、地質学が専門であり、川の現象について、感心を持っており、石神井川を手掛かりにして、他の河川の実状も見たいと思っている。

行政委員：石神井川の最上流部ということで、綺麗な水を流すまでに至っていませんで、どうして良いか考えておりますので、宜しくお願いします。

行政委員：雨水関係は、総て石神井川へ流しております。千駄山公園から関公園までに、遊歩道を作る計画があり、公園から公園へ散歩できる道を計画しておりますので、どうぞ宜しくお願いします。

行政委員：流域対策を進める中で、治水対策だけでなく、親水対策などに対応していかなければならないと考えております。四建と協力しながら、河川改修に合わせて、出来るだけ水辺と触れ合えるような環境作りを進めたいと思っており、意見を戴ければと思っています。

行政委員：治水と親水というのは、なかなか難しい事と思います。昭和40年代には、雨が降りますと、大谷口とかで、よく出水しましたが、最近は無くなりまして、管理だけではなく、最近では親水も重要で、旧河川に釣り堀公園を作ったり、いろいろと考えていきたいので、宜しくお願いします。

行政委員：区内は50ミリで整備されておりますが、水位上昇が早く、1時間に2m以上も上昇します。そういう意味で、普段はおとなしいですが、どうしても治水になります。昔の流れについて、勉強できたらと考えています。宜しくお願いします。

行政委員の代理：仕事で石神井川に直接係わった事は無いが、源流に近い部分を見た記憶があります。自然の状態ではないが、水量は無かったが、ゴルフ場の付近を流れている記憶です。

個人的な話ですが、子供の頃、常磐台に住んでいて、記憶に残っていません。今毎朝、東上線で石神井川を渡っており、桜の季節では、桜と川の流れを見ております。今後とも宜しくお願いします。

行政委員：現在、空堀川と柳瀬川は、毎年どこかで溢れており、全力をあげて整備事業を行っています。先程の話は柳瀬川でなく、空堀川です。石神井川の上流部分のコピーですが、なかなか良い場所で、水質はまだです。こういった会では、何月迄に何をやるのではなく、逆に、皆さんとどうやっていくか、じっくりと議論していきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

行政委員：40年代後半から都市化が急激に進み、水害優先で30mm改修の工事をやりました。環境の時代を迎えておりますので、環境に配慮しながらの川づくりが大変重要で、上流ですけれど、いっしょに良くしていきたいと思っております。最後に、生まれた所は、育った所は、流域は何ですかと、何々流域ですよ、と言う方が楽しいと思っております。

行政委員：石神井川は、管内では50mm対応の整備が終わっており、首都高の方で石神井川の付け替えを進めています。側道は木が繁り、木陰の中を歩ける状況で、散歩をしたりマラソンをしていました。川そのものの水に親しめることは、不足していると思うが、意外に都市の中で、住宅が迫っている中での環境にはと思っています。治水優先となりがちですけど、よりよい川ということでやっていきたいと思っております。

行政委員：私の居る所は3度目の職場です。現在は練馬大橋から上流の大野橋の改修と、山下橋から蛸橋間を1時間に50mmに対応する護岸を整備しております。整備に当たり、皆様の意見を戴きながら、より良い河川を作って行きたいと思っております。

都民委員：自分の地域で一番親しめるのが石神井川で、私が若い頃には、王子駅で非常な水害が起きまして、死亡事故も起きるような事故も有りました。区の方から石神井川の歴史的資料を貰いまして、勉強しております。最終的に治水が終わった時点で自然に戻し、地域の方々にそっとして戴き、水を手にかかけられ

る様な川にして戴きたいと、私は思っております。

都民委員：質問ですが、河口付近の工事は川の付け替えですか。付け替えは、高速道路のことですか。

行政委員：高速道路の王子線で、板橋区役所から、この先の葛飾・江戸川線のところへ繋がって、環状線道路となる道路を作っており、川を高速道路の工事に合わせてショートカットしたり、線形を変えたりしています。付け替えという言葉は遣いましたが、少し川の護岸の位置を変えたり、あるいは、新しい河川を作る工事を進めております。

都民委員：現在の河口の位置が、変わりますか。

行政委員：変わりません。参考ですが、河川数が変わったりして、土地が空いてまいりますので、これから北区と、よく相談して、地元還元できる形にしたいと思えます。

都民委員：王子駅の直ぐ下を通る所は、水が全くないですよ、流路を変更すると、あの様な現象になってしまうのです。

行政委員：そうです、首都高の工事が終わると、整理することになっている。その時点で、考えていきたい。

事務局：議長の選出と言うことで、前回の5月22日に準備会を開催しました。その際に、一様、座長に4建の工事第二課長、副座長に、山田委員ということになりました。

それで、この席で再度改めて承認して戴きたいと思えますが、どうでしょうか。（拍手あり）

4. 議事 石神井川流域連絡会設置要綱（案）及び運営要領（案）について

座長：4番目の議事1）ということで、石神井川流域連絡会設置要綱（案）について、5月22日に開催した準備会で審議しましたので、今回訂正箇所の説明のみで、宜しくお願いします。

それでは、事務局宜しくお願いします。

事務局：配付しました資料-1ですが、前回、（設置）第1につきまして、

河川に係わる情報や意見の交換を行う ⇒ 河川に係わる情報や意見の交換・提案を行う

第2のについても同様に

次に掲げる事項について情報や意見の交換を行う ⇒ 事項について情報や意見の交換・提案を
に追加する。

また、第5ですが、この中に、原則として年2回開催しを、2回以上という解釈をするということで案文については、2回以上行うということで、変更無しでご承認戴きました。以上です。

座長：意見がないということで、承認されましたので（案）を取らせて戴きます。

次に議事の2で、石神井川流域連絡会運営要領（案）ですが、運営要領（案）は、前回5月22日の準備会で、特に意見がありませんので、本日何かあれば、伺いたいと思えます。

都民委員：準備会を欠席したので、どういう話が出たのか判らないが、会議録は要旨だけでなく、生に近い議事録も作ってもらえないか。

事務局：議事録の公表については要旨という形で、一般の住民の方に対して、都民委員、行政委員の発言ということで発表することを考えております。

座長：ほかに何かございますか。ご意見が無ければ、承認ということで、（案）を取らせて戴きます。

それでは、議題の5について、「石神井川について」でございますが、1番の概要について、事務局
お願いします。

5. 石神井川について

事務局：石神井川の概要について、事務局が以下について説明

- ・1級河川の起点、終点、石神井川流域、支川、30mmの改修、50mmの改修区間について
- ・法的経過として、昭和40年の河川法改正により荒川水系の一級河川石神井川となる
- ・石神井川の湧水は、今も少し有ること、石神井川の河川管理者について、その他

都民委員：富士見池に何で石神井川の水を常時流さないのか、真っ青になっている。また、現在河川工事を行っており、川床からの湧水が、どうなるのか。

事務局：富士見池については、調節池の効果を持たせるため、雨が降って水位が上がると、自然に富士見池に入るという構造になっている。それと、湧水の話ですが、地形的な要素とか、そういったところで、石神井川全川にわたって、かなり今でも湧水があり、残るかと思えます。

座長：2番目の、治水計画について事務局の方から、お願いします。

事務局：石神井川の治水計画について、事務局が以下について説明

- ・流域面積61.6km²、流域の各市町村の面積とその比率
- ・現在、一時間に50mmの改修を実施、50mmの確率は統計を処理すると大体3年に1回程度の雨
- ・石神井川の基本高水（たかみず）量は、隅田川合流点で480m³/sである
- ・下流から整備すると時間を要するので、即効性のある調節池4か所程設け治水安全度を高めている
- ・中小河川の整備状況は、13年3月末で約62%、まだ9km余が残っている

座長：引き続きまして、水環境の現状につきまして、東京都環境局から、お願いします。

行政委員の代理：石神井川の水環境の現状につきまして、環境局から説明

- ・BOD、DOの用語説明
- ・環境局環境評価部が、毎月1回、石神井川では、豊石橋、台橋、緑橋で測定している
- ・昭和45年に環境基準値が設定、石神井川のBODの環境基準は10mg、平成元年度5mg
- ・平成9年5月から、環境基準値5mg、環境基準を達成した状態がここ数年間続いた状態である

都民委員：石神井川の治水計画ですが、50mm対応の次としては、何mm対応でやるのか、最終的に何mm対応となるのか。

事務局：石神井川は、都市河川と言われ、その整備規模は大体これを確率で言うと、50年から100年に1回という、言い方をしています。東京都の場合では、大手町気象台のデータを用いると、100mmというのは、70分の1位。最終的に、100mmという計画自体はありませんが、いろんな答申とか、方向とかいう意味で、100mmを目標にしています。そのうち10mmは、総合的な治水対策ということで、残り90mmについては、一様、河川とか下水道とか、そういった施設でと言うのが、目標です。30mmから50mm、その次は、狩野川台風が昭和33年9月26日と記憶していますが、これが1時間76mmというのを記録しています。トータルでいきますと、447mmと思いますが、50と100の間ということではないですが、75mmというのが河川としての次の整備水準です。

都民委員：溜淵橋から青梅街道まで事業承認区間と聞いてますが、東伏見に早稲田グラウンドが有り、あそこの付近を改修するという話を聞いたことが有りますが、このエリアに含まれるのか。

事務局：正確には、溜淵橋から新青梅街道ではなく、ひとつ手前で、弥生橋というのがあります。丁度早稲田のグラウンドの区間だと思って戴ければ、その区間で、今実際に埋文、遺跡の調査ですが、これからやるかと思えます。一部は、すでに着工しています。

都民委員：それは、多自然型、あるいは、湧水、等々に対する配慮はされているのですか。

行政委員：そうですね、改修の断面につきましては、配慮していかなければと考えております。

事務局：富士見池の公園と上流の東伏見公園というのが、ここで審議会が通りましたが、その間が緑地の線が掛かっており、石神井川沿いには、都市計画公園というのが、いくつも有つて、さきほども城北公園の教習所の土地の話もそうなんです、出来るだけ水辺に近づけるなり、自然に配慮した形で、やっていきたいと考えております。

都民委員：水質の件では、上流の方が水質が悪いと聞いたが、下水道の計画ですか、正確には判らないので、下水道になっていない所と、それから合流式と分流式があり、分流式ということ、合流式というのは、流れ出てくるそこら辺の区間が、どういうふうになっているのか、知っていれば、教えてもらいたい。

事務局：基本的には、区部は合流式でございます。23区で違うのは、世田谷の一部と、大田区の田園調布なども分流です。あとは荒川のいわゆる千葉寄りです。端的に言うと、下水の普及が早い所は、合流式です。多摩部は分流式で、分流式が良いという、言い方も有るけれど、合流式の良い面もあり、分流式は汚水と雨水が全部分かれます。例えば、分流式の場合には、道路に降った場合、最初にゴミなんかが入りますので、そういった物が川へ入る訳です。合流式の場合は、ある程度の5mmなり6mm位までは、下水道の処理場に行きます。合流式ですと雨が降った場合に一緒に行くが、そういった面では、分流式でもダイレクトに川へ流れるという意味では、若干負荷が掛るところがあります。最近の下水の方式として分流式、雨水と汚水を分けるのが多いということです。

都民委員：大雨の時、かなりの臭いがあったので、下水が流れていると思えば良いのですか。

事務局：合流式の場合は、今、計画の汚水量の大体3倍までは処理場へ行きます。それを越えて、薄まると川へ出てくる構造になっています。どうしても、生が出ることはないですけど、いわゆる雨水だけでは無いというのは、確かです。先程のゴミだとか、工費的には1本で済むとか、それぞれ長短ある中で、

比較的古いのは、合流式であり、下水道さんも合流改善とかで、かなり薄めてだそうと努力されていると、聞いてます。

座 長：6番のその他でございますが、何か、皆様ご意見ありませんか。

都民委員：年2回開催という規約は、2回以上やるということで、早くやってくださいと言うことと、何時ごろか。そのへんが我々判らないので、下水の話は、いろいろ質問が有りますので、次回どういうテーマでやるのか、どういう資料を出して戴けるのかが判れば、その辺を知りたい。

事務局：第2回目は、台風が過ぎた10月下旬から11月下旬頃に行いたいと考えています。それで、具体的には、現場という意見も2、3の方々の意見も有ったようなので、工程を組んで、提案させて戴きたいと思えます。

座 長：ある程度できた段階で1案2案位で、皆様に打診し、決定して戴ければと思えます。

都民委員：事務局に任せます。

座 長：それでは、最後の、閉会の前に事務局の方から、何か、意見を。

事務局：本日の会議につきまして、会議録を作りまして、皆様へ見て戴いて、公開したいと考えていますが、その節はまた宜しくお願ひします。

都民委員：今、10、11月に現場見学会については、良いのですが、この会議について、この前も土、日とか普段の夜とか意見があり、出来ないかと言いましたが、見学会は出来なはずけれど、意見として、それを考えてなら良いです。また、具体的に全員に戴ける資料があれば、案内を送る時に一緒におくれば、安くなるのですが。

事務局：確実な約束は出来なはずですが、1週間位前に送らせて戴き、目を通して戴いておれば、会議も効率的に行えますので、努力して行きたいと思えます。

座 長：その他に、ございませんか。無ければ、これで、第一回流域連絡会を終わらせて戴きます。どうも有り難うございました。

——— 以 上 ———

流域連絡会委員の主張

No 1 委員

西東京市東伏見に居住 石神井川は、水質が悪く、いこいの水辺とは言えない。下水道の普及の結果により徐々に綺麗になったが、まだ不足である。そのため

- ①コンクリート、鋼矢板の護岸で人が降りられない。ビオトープ的な考えで岸辺を直す必要がある。
- ②水量が不足で水質もまだまだ悪い。地下水が十分流入するよう流域での工夫が必要。石積み護岸にする、雨水枡を設置させる、農地や林地を保全する。
- ③景観以外に、川（の水）を生活に生かせるような手だてが肝要。「体験水田」を沿岸に作ったり、水産物（シジミ）を育てたりするのも面白いでしょう。

川が暮らしと関係なくなれば、汚れる。行き着くところは蓋掛けして道路となる。大雨の際の「排水路」としてしかなくなる。ヒートアイランドを防ぐにも、生きた河川が健在であることが求められている。

No 2 委員

武蔵野台地の中央に石神井川が流れ、生命力を吹き込んだ悠久の歴史をきざんできた。豊かな恵みをもたらす、東京を代表する自然河川であって欲しいとねがっている。

石神井川だけが好きというのではなく、武蔵野台地の一部としてすまなのである。野川、柳瀬川、隅田川も白子川も好きで、木場で育ったせいでもありましょう。急激な社会変化や進展に目を奪われ、身近かな自然を愛しむ暇が無いのが現実です。

長い教員生活のあと、練馬区の郷土資料館での仕事を頂き、石神井川を見直してもらおうべく、特別展を企画、実施する機会を得、益々石神井川への関心が深まりました。

小平市の市報で知り、同じ考えを話し合っていけることも、喜びと思い応募しました。

No 3 委員

石神井川は、神田川に比べてより直線的であるとともに、縄文期の遺跡が少ないとされている。それ以前の旧石器時代遺跡に比べて少ないことについて、田無市史は、縄文期以降の水質の悪化、あるいは湧水の減少が推定されている。またその水量変化が石神井川の形成と変遷に関わったものとみている。自然界の変遷に加えて、現在は人為の影響が重なってきた。地下水の低下が湧水の減少、ひいては平常時の流量減少という問題につながる。また他面では都市化がもたらした地表の変化から豪雨時の一時的集中による溢水という問題をもたらしている。

自然の作用が作ってきた石神井川は神田川などの隣接河川に比べて直線的形態を持っている点、排水機能の上では有利といえよう。しかし近時においては下水道の排水機能との兼ね合いは不可欠である。

自然環境としての河川の性質を知り、人為影響下の河川としての性質を明らかにする、その両面からみるのが今後石神井川を考えるための課題であろう。

No 4 委員

—— 座長の経験有り

私は、練馬区環境保全課のエコアドバイザーの研修をうけ、「石神井川って知ってるかい」のグループで、都、区等から関連部門の資料提供を受けつつ、グループの座長として勉強させていただき、グループの座長として無事終了し、練馬区長よりエコアドバイザー委嘱され、昨年は準備活動し、今年度から地域の人達と一緒に「石神井川をもつと知ろう」新たに学びたい。

昭和26年から練馬区早宮3丁目に住み始め、昭和30年頃までは、川魚、水草、セリ、ヨモギ等の野草をかきわけて、水遊びをしていた、流域には桜の花、屋敷林も変貌している。

この事は都市化により、無計画な開発であった。私はエコアドバイザーの方々、住民の方々と「石神井川流域を見直そう」のテーマとして、石神井川流域側道を歩きながら、湧水、川魚等を観察し美化運動までに繋げられればと老体にムチ打って、住民と心ある人達と一緒に、河川部計画課や湧水係の計画の進行状況の観察と区民として何が出来るのか一緒に自問自答したいと思っています。

長光寺橋から練馬大橋間までの魚道、魚床、水草茂る島作り、水草、水棲物等々の変化も歩いて観察して行く所存であります。

No 5 委員

練馬区内に住んで、特に石神井川に近い場所に24年間も生活しています。

川の流れは、心を癒す様々な姿を見せてくれます。引越してきた当時は、川の兩岸に桜の並木が続いていて、春の桜の季節は、桜吹雪が川面に散り敷き、錦秋の折には、帯の流れのように色鮮やかで目をみはるものがありました。

しかし、川の氾濫の為に、治水工事が行われ、北側の桜の並木は切り倒され、川幅は広くも深くなったようですが、巨大なコンクリートに囲まれた排水路化してしまいました。

私は、川が好きなので、よく川沿いの道を歩きます。板橋区内のつり堀公園には、石神井川が公園の池を迂回している所や、上板橋の辺は賑やかな桜祭りが行われたり、つい先日訪問した、板橋区立金沢小学校の周辺の石神井川は、川底が見えないほど深いそうですが、私のイメージの一つに近いものを感じました。また、北区の飛鳥山公園から石神井川ぞいに、児童館の子供達と自然観察をしながら、緑道を歩き、川の水が増水した折りには調節池になる場所で多くの水鳥の観察をしました。川がこんなにも近く感じられるのは、すばらしいことだと思いました。

同じ川でありながら、流れる場所の立地条件によってこんなにも、異なった表情を見せているののかと、大きな違和感を感じ、改修工事の折にも周辺への配慮が欲しいと思わずにはいられません。私は、石神井川の源流から、隅田川の合流点まで歩いたことがありませんので、この機会に、もっとこの川について勉強させて頂きたいと考えています。

No 6 委員

「城北公園・四季の会」 活動目的：「都立城北中央公園」の自然の回復と保全に関する調査および提案。及び「石神井川」の自然の回復と保全に関する調査および提案。

西荻窪から石神井に中学生になったときに移り住んだことから、石神井川との出会いがはじまった。その頃の石神井川は、爆弾跡と言われた小さな池が所々にある田んぼの中に、ゆったりと小さな流れを印していた。友達の多くは農家の子と戦災孤児の寮に住んでいる子供で、夏になると石神井川でパンツひとつで泳ぎ、僕等もいっしょに楽しんだ。中学からずうっと住み、長女が小学校5年生のとき、小茂根に移り、そこにも石神井川があった。僕の生きてきた時の流れと同じように石神井川はつながっていたのだ。

ある時期、バードウォッチングの観察会に参加して感じることは、自然の崩壊が進んでいるという事実であった。

一昨年、板橋区「エコポリスセンター」の環境観察員制度の一環で立ち上げた「城北公園・四季の会」では「都立城北中央公園」と「石神井川」の自然観察を続けている。自然の破壊が進んではいないかが気になる仲間とともに。

都は、「東京構想2000」を発表した。その中で「都立城北中央公園」は重点対象公園として、そこを流れる「石神井川」は主な河川として位置づけられています。そのような河川を見つづけていくことの重要性を今しみじみと感じている。

No 7 委員

知遊塾 目的：自助努力による自立と親睦を図り、定期的を実施するとともに、教養講座、実践講座を通じて、健康で充実した老後を快適に過ごすための知識と遊びを学ぶ。熟年者の団体で、14年間続けている。

石神井川沿川北区、板橋区、練馬区の流域には何度も訪れており、感動している。周辺は緑豊かな自然と史跡や伝説に包まれており、北区の正受院周辺や板橋の旧中仙道周辺と石神井公園付近は史的にすばらしいものがある。神社、寺、城跡、遺跡等歴史の生き証拠が点在している。今は一変して、遺物だけが残っている。

石神井公園付近を歩くと三宝寺、氷川神社、等等点在し、すばらしく心を踊らせるが、そこを流れる石神井川沿川はまことにさっぽうけいである。川の中は整備されてはいるが岸の景観が物足りない。花とか樹木を多く増やし、桜ばかりでなく秋は紅葉など四季を通じて鑑賞できるようにしたら良い。このことは石神井川全体に言えることである。

最近4年ぐらい前から、中高齢者の歩く団体が非常に多くなり、遊歩道を再点検し、道をふやし、誰もが楽しく歩ける遊歩道にしなければならない。

玉川上水を例にとれば、管理、整備が自治体毎に差があり、石神井川も同じことが言えます。これからは役所主導でなく、住民のアンケートなどの意見により住民主導の景観づくりが必要であると感じます。

No 8 委員

北区・みずとみどりの夢倶楽部 目的：北区内の「水と緑」を中心とした、自然環境保全に関する学習及び実践活動 会員数：18名

北区内の4河川や公園緑地を対象にした「水と緑」を自然環境保全の学習、実践活動を行ってきた。荒川市民会議、荒川学会をとうして荒川に関する意見・提案・赤羽自然観察公園へのボランティア参加等を中心に活動している。

石神井川については、水質調査を行ったところ、隅田川よりかなり良好であることがわかった。これは下水道の普及の結果によるところが大きい。しかしその分、流量は非常に少ない。下水道だけでなく、直立護岸による湧水の水みちが分断されてしまったことも、大きく影響している。

区内の石神井川は、散策路や旧河道を利用した緑地が整備されており、区民の憩いの場になっているが、深い直立護岸が延々と続くため、水に近づけない。昨年策定された「北区緑の基本計画」では、護岸の壁面緑化や散策路の整備などの施策が打ち出されたが、もっと現状を抜本的に改善して、湧水の導入による流量・水質の改善と、水辺に近づける場の確保を進めてほしい。

河川管理への市民参加の仕組みとして様々な河川で発足してきた「流域連絡会」が、石神井川で発足することになり、この会を参加者全員で充実した市民参加の場になればよいと思う。

No 9 委員

石神井川が隅田川に合流する堀船3丁目に住んでいます。干満の影響で水位がいつも変わること、それに合わせて浮いているゴミが石神井川の河口に停滞し、流れ去るのを見ている。大雨の際、ヘドロが流されたり、時には酸欠で多数の鯉が死ぬこともあり、清掃船の活躍で石神井川の河口は綺麗になっています。 50

石神井川の河口から板橋区の新板橋までの自然及び野鳥の調査は毎年行っています。オナガカモ、カルガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ等のカモ類、ユリカモメ、ヒヨドリ、ハクセキレイ等も観測しました。石神井川鴨は、不思議池を往復しています。矢鴨の救出で判りました。

石神井川の自然のままの河床では、昔の石神井川を勝手に堰んでいます。5年前、練馬区の自然の会会長Y君に「河口を案内するから区内の石神井川と周辺を教えて欲しい。そして有志の石神井川交流会を持たないか」と呼びかけたが、「それは行政の仕事だ」とのことで、そのままとなった。

今回、積極的に賛成し、参加することを希望します。

No10委員

私の住んでいる所は、首都高王子線の工事現場と隣り合わせである。現場の高い柵に囲まれ、橋の所からしか川を見ることが出来ない。

高速道路工事のために、石神井川の水は夏には非常に臭くなり、川底にはヘドロが堆積している。ここから隅田川までの区間は、高架橋の踏み台にされて、飛鳥山トンネルから水が滝のように流れている。この当たりだけを見れば、石神井川はまつたくの「死の川」という感じをうけるが、水質は決して悪くはないはずである。まずは河道の浚渫や工事現場での十分な配慮など、水辺環境を改善していくことが必要と考える。

「北区リバーフロント活性化構想」や「北区都市計画マスタープラン」では、隅田川との合流点に防災船着場の整備が計画されている。王子駅南口駅前にも船着場を作る構想がある。幹線道路の整備が計画されているが、これらは自動車優先の交通整備いかくであり、船着場と鉄道のネットワーク化を図り、舟運を公共交通網の一環として機能させていく方向性が欲しい。

今回応募にあたり、流域図を見て、源流が小平市に有ることを知り、石神井川の上・中流の方々と話し合いながら、川を活かした流域のまちづくりについて、ともに考えていきたい。

No11委員

私は、石神井川ほとりに住んでおり、毎日毎日川をみており、2年になります。私がおこが気に入った理由として、石神井川がとても清らかで、美しい流れだからです。いまでも十分魅力が有りますが、もっと身近な川にしたい。子供が川に降りて遊べる様にしたい。もっと沢山の生き物が住めるようにしたい。

川の存在は、人間にとってどういう意味が有るのでしょうか。生活に利用し、田畑を潤した、反面、長い間氾濫という恐怖の対象でありました。しかし、日本の川と人との関係は、めまぐるしく変化しまして、受難の時代は30年代から50年代ぐらいでありました。

現在の石神井川は、見た目には清らかな流れです。あのころとは雲泥の差で、下水道の普及努力の結果なのでしょう。石神井川の生物調査の結果からも、生き物が戻ってきていると聞いており、近年飛躍的に水質が改善されたのは間違いありません。

一方かつては、石神井川も暴れ川で、何度となく氾濫したと聞いていますが、古い人に聞くと、少なくとも20年くらいは氾濫していないそうです。最も重要な生存に対する石神井川の脅威は、ほぼなくなったのかもしれない。しかし、それと引換えに、生き生きとした川とのふれあいを失いました。

人は、橋を渡る時、必ず川面を覗きます。川の流れが、人間に「癒し」を与えるという説もあります。石神井川を眺めていると、なぜかほっとする感じがするのです。カルガモや、セキレイや、コサギの美しい姿を見つけたときはなおさらである。

川面は遠い、治水のための3面護岸は、安全と引換えに人と川の触れ合いを無くし、人を遠ざけました。かつてのように水に触れられる川があり、そこに生き物がいて、日常生活の中で自然に接することが出来る開かれた川こそが、本来の川の姿であり、生きている川だと思えます。

私の住んでいる石神井河畔のアパートは、河川事業用地の範囲内だそうですが、ゆくゆくは川原になるのでしょう。できるなら石神井川をもっと身近に感じられるような事業にしていだきたいし、その手伝いもしたいと思っています。

No12委員

「石神井川の自然を守る会」は、さる昭和49年3月、当時の北区長、我孫子都議、橋沢区議はじめ石神井川沿の町会、自治会、商店街、その他有志によって結成された。

石神井川はかつて江戸町民にとって絶好の行楽地でした。ところが最近、沿川一帯に工場や住宅が建ち並び、地域開発が進んで、昔日の面影は極く一部にしか残されていない状態となりました。

しかし石神井川改修工事に際しては、六建と北区当局の深い理解のもと、会の趣旨を踏まえ「音無さくら緑地」「音無もみじ緑地」「音無みずき」「音無こぶし」など完成を見、更に沿川一帯の植樹、遊歩道の整備が整って、絶好の散策路となっています。

今後は3つの視点をもって運動方針とします。① 石神井川の美化促進 ② 石神井川沿川の史跡の保存 ③ 石神井川沿史の発行

「石神井川の自然を守る会」は、今後さらに飛鳥山より下流の、現在のカミソリ護岸の解消を運動し、飛鳥山より上流と同じように、水に親しめ、遊歩道として散策できるように、努力して参りたい。

最後に、流域連絡会を通じて、他区市との意見交換を図り、色々の情報を得るとともに、由緒深い石神井川が子孫に至まで都民の名勝地として残すため尽力をつくしたい。

建通新聞

東京

発行所 建通新聞社 東京支社
〒105-0004 東京都港区新橋1-17-2
第2光和ビル
東京支社 (03) 3504-3551
中央支局 (03) 3504-3551
葛飾支局 (03) 5680-8611
多摩支局 (042) 527-7291
新聞定価6ヵ月 33,000円
(定価 消費税1,571円)
©建通新聞社 2001

支社・発行所
埼玉/神奈川/静岡/中部/大阪
岡山/香川/徳島/愛媛/高知

主なニュース

▽首都高公団が高速大宮線の見沼田圃整備
で高梁部上・下部工を14年度に発注...2面
▽石川島播磨の特機工場は8月着工...3面
▽世田谷区が次期改築校を駒沢小に決定し
文教委に報告...8〜9月で基本構想...4面
12面から入札情報

新河川整備計画策定へ

石神井川で流域連絡会を設置

都内7番目

都建設局は、新たな河川整備計画の策定に向け、近隣住民の意見を聞く流域連絡会の設置を進めている。12日には都内7番目の会として「石神井川流域連絡会」を立ち上げた。これらを含め、当面13流域で流域連絡会を組織し、整備計画案のたたき台を示し、住民の意見を反映した案を固め、国に対し認可手続を開始する。流域連絡会を設置せずに河川整備計画の策定を進める流域もあるため、合計20流域程度で14、15年度に新河川整備計画を確定する予定。環境対策を盛り込み、基本的な現在の時間雨量50ミリ対応を75ミリ対応にレベルアップした計画となる。

14~15年度で20流域程度を認可

都建設局

流域連絡会の設置は、11年5月発足の江東内河川流域連絡会が最初で、これまでに▽日本橋川・亀島川流域▽柳瀬川・空堀川流域▽平井川流域▽野川流域▽内川流域と今回の石神井川流域が完了した。これに加え、13年度末までに▽浅川流域▽鶴見川流域▽神田川流域▽毛長川流域▽隅田川流域▽渋谷川・古川流域の6流域で設置を見込んでいる。流域連絡会は、河川整備

に対する意見を聞き、行政と住民との相互の信頼関係を築くための組織。新たな河川整備計画策定に当たっては、計画段階から住民の意見を取り入れ、原案の段階からこれを示し、修正を加えながら整備計画案を固めていく。住民側の参加者は公募し、都と区市町村の行政担当者の合計20人程度で構成する。2年交代で住民側の参加者が交代。江東内河川流域連絡会は第2期の組織となっている。

新たな河川整備計画は、9年度の河川法改正に伴い、これまでの治水、利水に加え、「河川環境の整備と保全」を新たに位置付けたりしている。河川整備に親水性などの水辺空間整備、周囲の緑地空間整備などを取り入れ、総合的に新たな計画を策定。おおむね30年後を見通しているため、現在進めている60対応が完了し、次期の75対応に踏み込んだ計画となる流域がほとんど。市街地の河川では、川幅を広げることが困難なため、調整池、公園、運動場利用(地下利用含む)、透水性舗装、浸透槽など河川の周囲も含んだ総合的な治水対策とする。また、浚渫により川底を深くする方法もあるが、管理・景観上で問題があるため、新たな河

建通ネットワーク

「指し値の実態を追う」

景気低迷と建設市場の縮小から、ダンピング受注が横行し、下請け企業は厳しい条件での仕事を強いられる。厳しい条件を端的に表しているのが「指し値」であり、専門工事業者の大半が、この指し値に泣かされているという。「ダンピング受注している元請け企業が、指し値に適正な価格競争に果敢とてかかない」と、半ばおきならぬにも似た高倉さん等が語っている。7月のネットワークでは、各地の専門工事業者から指し値の実態について聞いた。また、国土交通省の佐々木基前建設検査課長に、インタビューした。

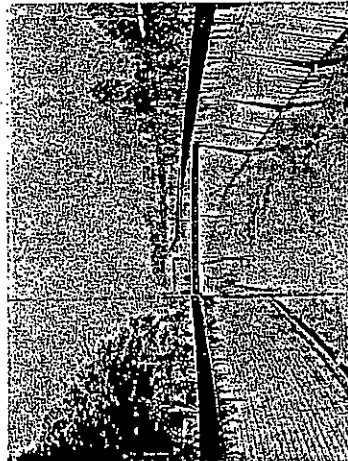
石神井川

SHAKUJICAWA

石神井川は、小平市御幸町にその源を發し、田無・保谷市内を流れ練馬区に入り、富士見池や三笠寺池の湧水を合せ、板橋区の金沢橋付近から北区音無橋にかけての峡谷を流下し、玉子駅付近から低地帯を流れ隅田川に合流する河川である。近年までは、本川の流水は動力源や農業・工業用水として利用されてきた。本川の50mm/hr規模の改修計画は、昭和14年に策定されたが、その後改定し、昭和43年12月に策定され、現在はこの改修計画に基づき練馬区内で事業を実施中である。

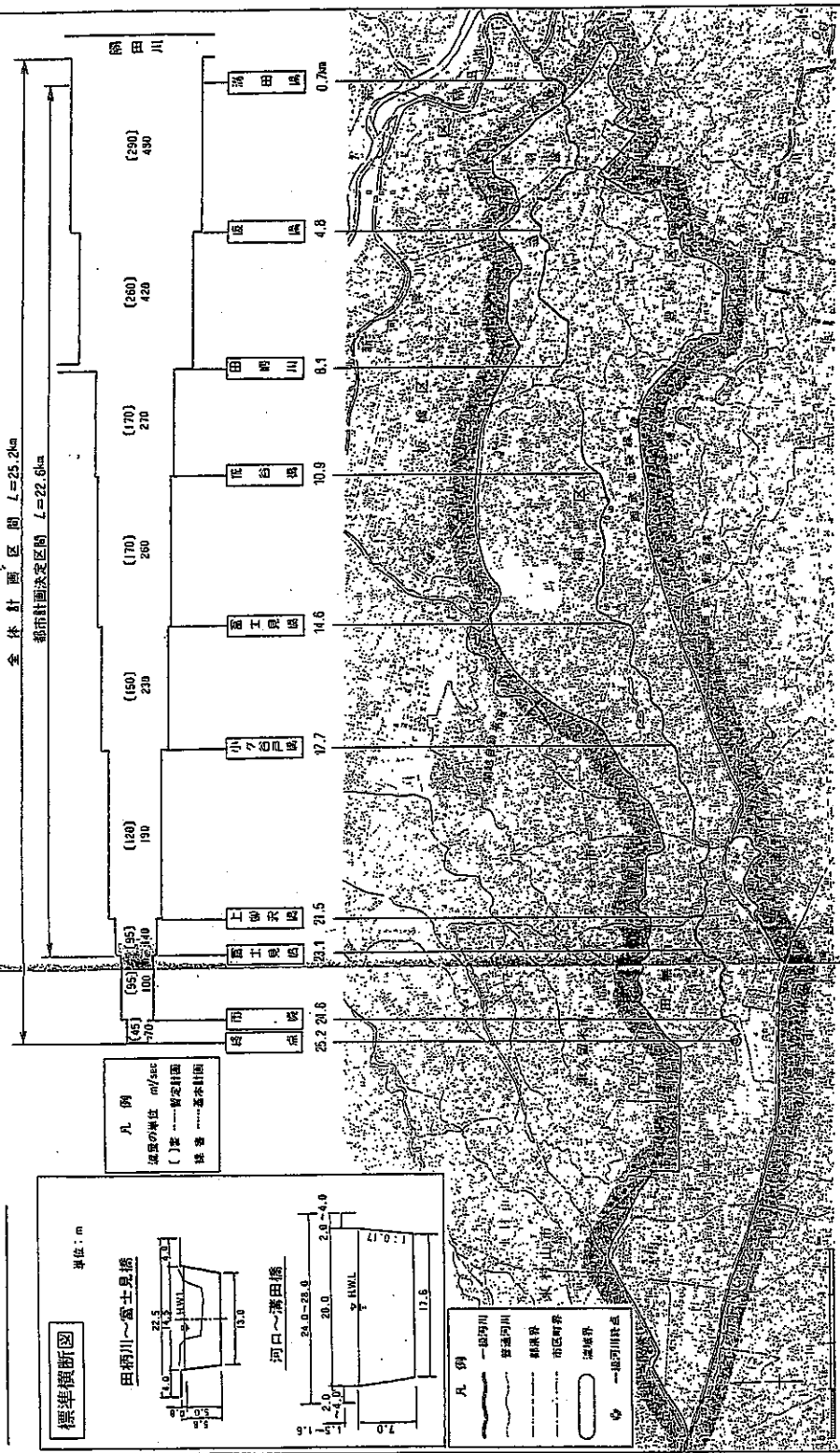
なお本川は全川30mm/hr規模の改修は完了しているが、下流部より実施している50mm/hr規模の改修が到着するまで長年月を要する、上流域の治水安全度を早期に向上させるため、田無市内に向台調節池他二調節池を設置した。

また将来計画については、調節池や分水路等を考慮した計画を現在検討中である。



全流域上流 (改修前)

平面図・流量配分図



河川名	石神井川	水系名	荒川水系	級	種	級
流域面積	61.6km ²	延長	25.2km	下流域 北区臨三丁目地内(隅田川)		
				上流域 小平市花小金井町三丁目		

計画規模	計画規模	計画高水 (m/s)	流出係数	計画高水 (m/s)	流出計算法	河口水位	河口水位
暫定	50	1/3	0.6	290	AP+4.0	AP+4.0	AP+5.1
基本	50	1/3	0.85	480	合理式	AP+4.0	AP+5.1
将来	—	—	—	—	—	—	—

改修方式	断面形式	事業種別	事業名	区	間
暫定	河道+分水路	高潮	河口~清田橋	—	—
基本	河道+分水路	中	清田橋~終点	—	—
将来	—	—	—	—	—

市区町別流域面積及び河川延長

No.	市区町名	流域面積 (km ²)	比率 (%)	延長 (km)	比率 (%)
1	北區	3.5	6	3.0	12
2	豊島區	5.8	9	0	0
3	板橋區	9.6	16	5.8	23
4	練馬區	28.5	46	11.6	46
5	保谷市	3.6	6	1.6	6
6	田無市	5.2	8	2.6	10
7	小平市	3.8	6	0.6	3
8	武蔵野市	0.7	1	0	0
9	小金井市	0.9	2	0	0
10	計	61.6	100	25.2	100

年月日	水害名	流域面積 (km ²)	被害家数 (棟)
S.33.9.26	狩野川台風	不詳	不詳
S.41.6.28	台風4号	309.4	8,213
S.51.9.9	台風17号	108.5	3,174
S.52.8.17	集中豪雨	30.6	797
S.53.4.6	集中豪雨	19.8	645
S.57.9.12	台風18号	18.9	1,154

主な水害記録

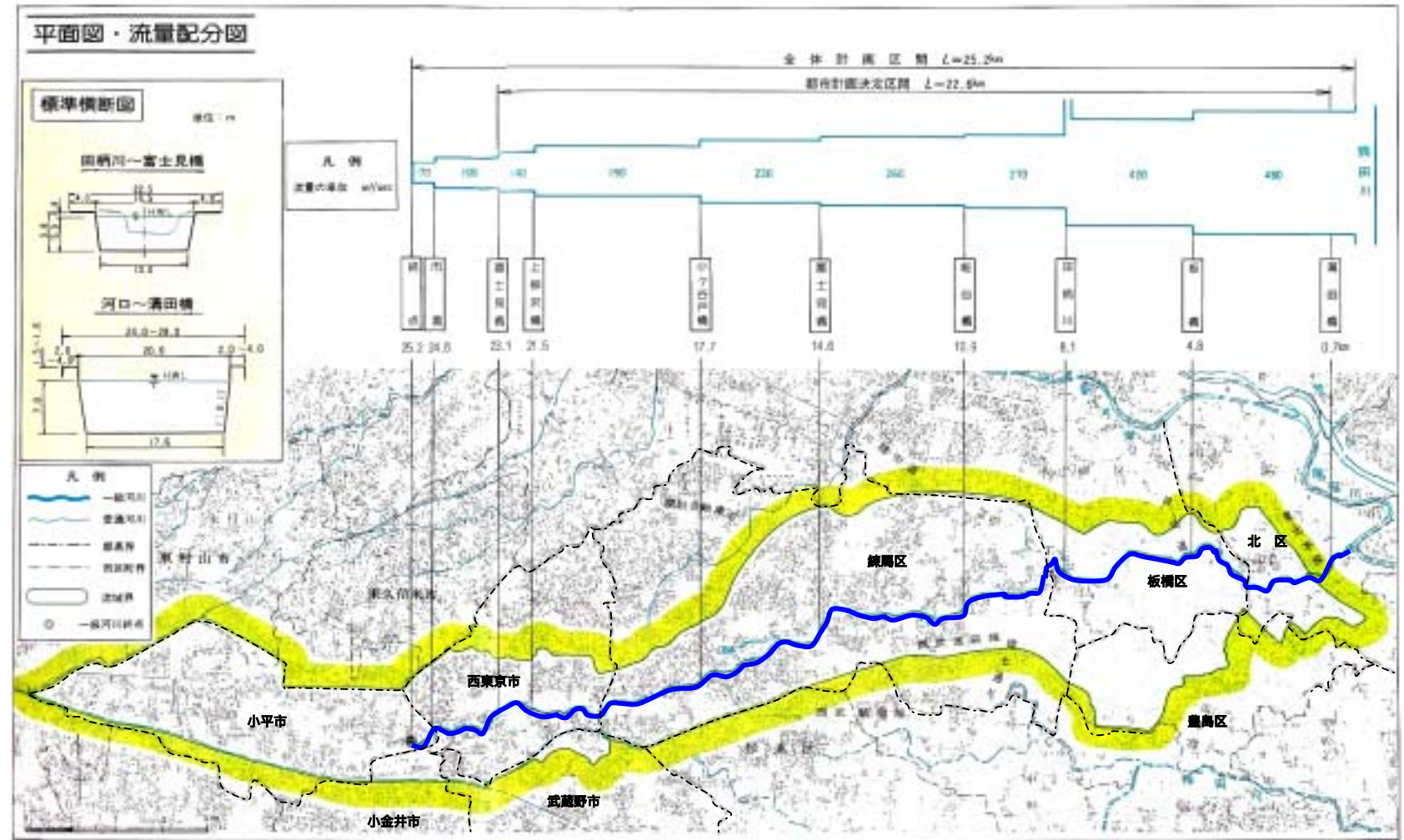
石神井川の治水計画

石神井川計画諸元

延長 (km)	流域面積 (km ²)	m/hr	確率	基本高水 (m ³ /s)
25.2	61.6	50	1/3	480



滝野川橋より上流



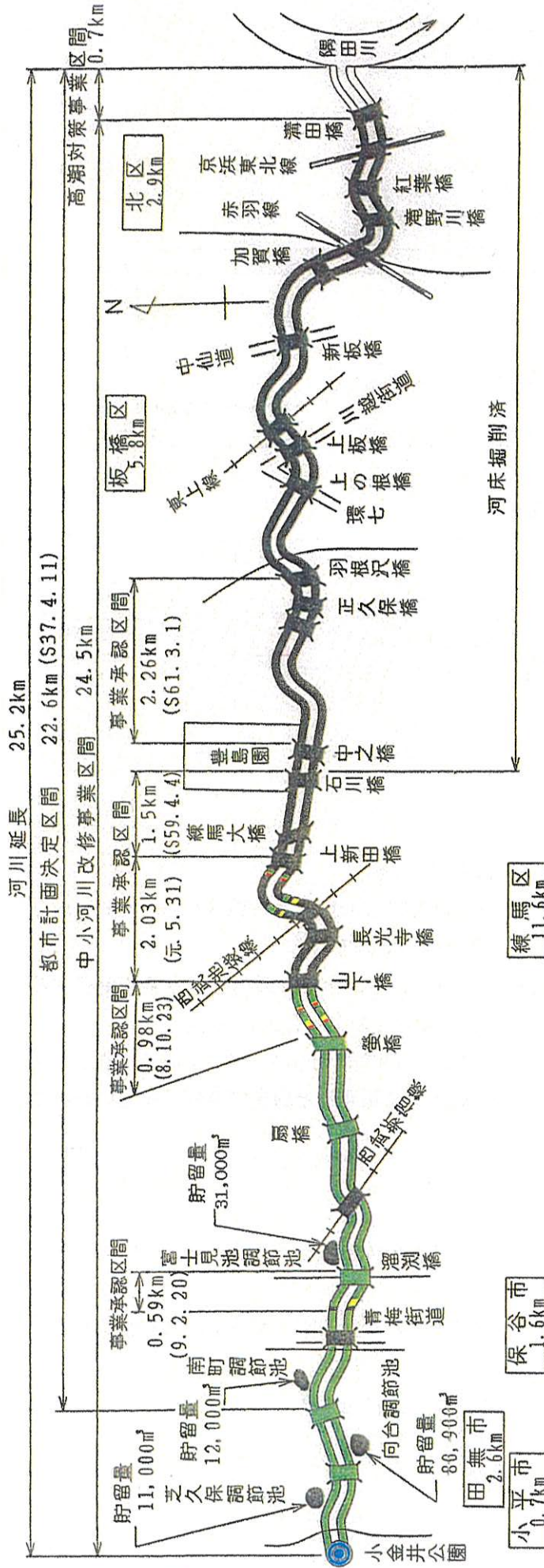
石神井川の流域面積と河川延長

市区町村	流域面積 (km ²)	比率 (%)	延長 (km)	比率 (%)
北区	3.5	6	3.0	12
豊島区	5.8	9	0	0
板橋区	9.6	16	5.8	23
練馬区	28.5	46	11.6	46
西東京市	8.8	14	4.2	16
小平市	3.8	6	0.6	3
武蔵野市	0.7	1	0	0
小金井市	0.9	2	0	0
計	61.6	100	25.2	100

主な水害記録

年月日	気象名	氾濫面積 (ha)	浸水棟数 (棟)
S.33. 9.26	狩野川台風	不祥	不祥
S.41. 6.28	台風4号	309	8213
S.49. 7.20	集中豪雨	46.0	1419
S.49. 9. 9	台風18号	42.4	914
S.51. 9. 9	台風17号	108.5	3174
S.52. 4. 6	集中豪雨	30.6	797
S.53. 4. 6	集中豪雨	19.8	645
S.57. 9.12	台風18号	19	1154
H. 1. 8. 1	雷雨	7.4	633
H11. 8.29	集中豪雨	5.7	289

石神井川概要図



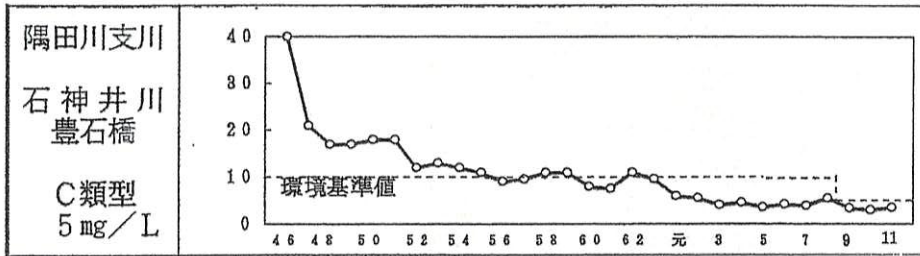
要改修延長	平成12年度末見込	平成13年度予算	平成14年度
	整備延長	規模	以降残延長
24.5km	15.1km	0.1km	9.3km
	整備率	整備率	
	62%	62%	

調節池概要

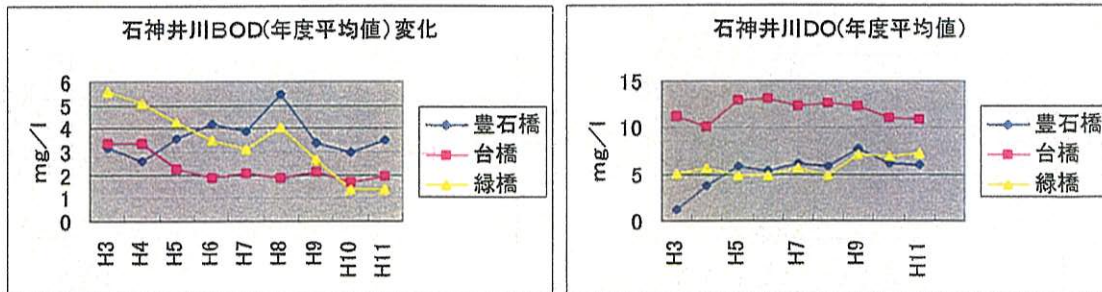
名称	区市	貯留量	完成年度
富士見池調節池	練馬区	31,000 m³	S47
芝久保調節池	田無市	11,000 m³	S56
南町調節池	田無市	12,000 m³	S55
向台調節池	田無市	81,000 m³	S58
合計	-	135,000 m³	-

水環境の現状について

○水質の経年変化



○近年の上・中・下流での水質の経年変化



[参考]

○BOD (生物化学的酸素要求量)

有機物による河川の水質汚濁の指標として用いている。

水中の汚濁物質が微生物によって酸化分解される際に消費される酸素量(mg/L:1リットル中のmg数)で表し、水温20℃で5日間の値を用いている。

BODが高いということは汚濁が著しいということで、水中の酸素をより多く消費することとなり、水生生物に悪影響を及ぼし、ひどい場合は悪臭を発生させる。

一般的には、人為的汚濁のないきれいな河川のBODは1mg/L以下であり、魚の生息環境としては5mg/L以下が望ましく、10mg/Lを超えると悪臭が発生するといわれている。

○DO (溶存酸素)

水中に溶解している酸素のことであり、20℃で1気圧の清澄な水1リットル中には約9mgの酸素が溶解している。

水中に有機物が混入するとDOは消費されて低くなり、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなる。

DOは、水中生物にとって不可欠なものであり、比較的生命力の強いコイやフナ等でも5mg/L以上が望ましいとされている。